

図 C.2.2.2.
血圧とアウトカム

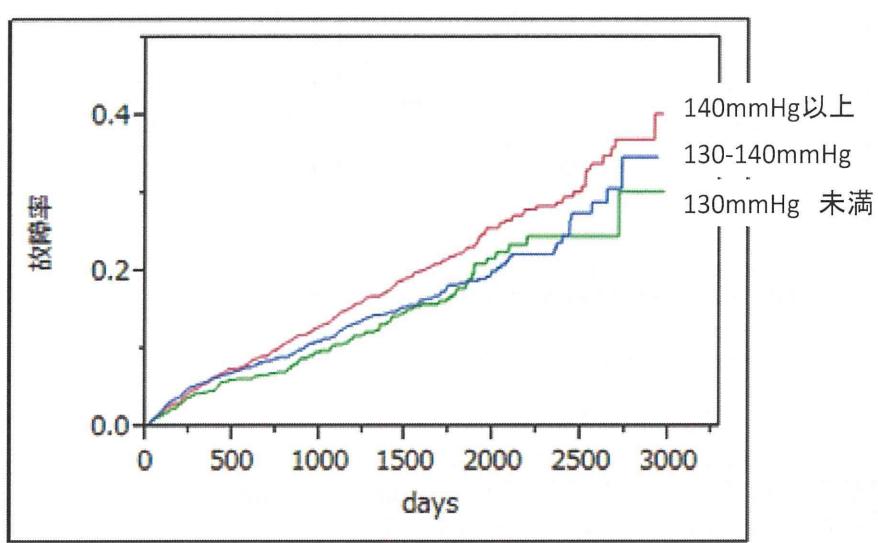
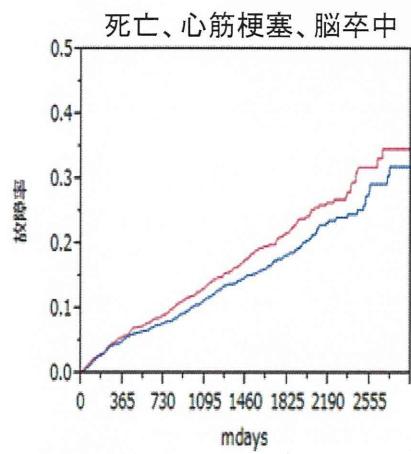


図 C.2.2.3. LDLとアウトカムの関連 100mg/dl 未満と予後



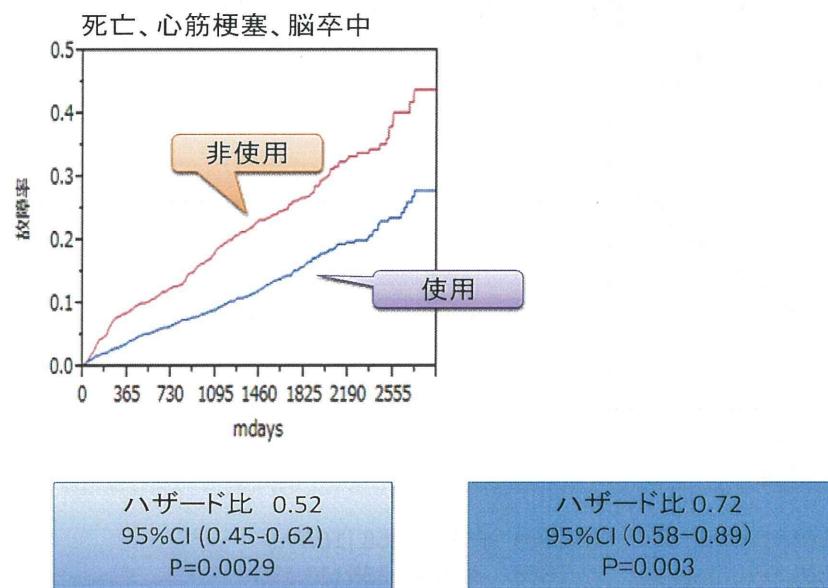
ベースライン $LDL < 100 \text{ mg/dl}$ n=1609 イベント268 (16.7%)

ベースライン $LDL \geq 100 \text{ mg/dl}$ n=1888 イベント285 (15.1%)

単変量解析 HR (95%CI) 0.84 (0.71–0.99) Log Rank p= 0.045

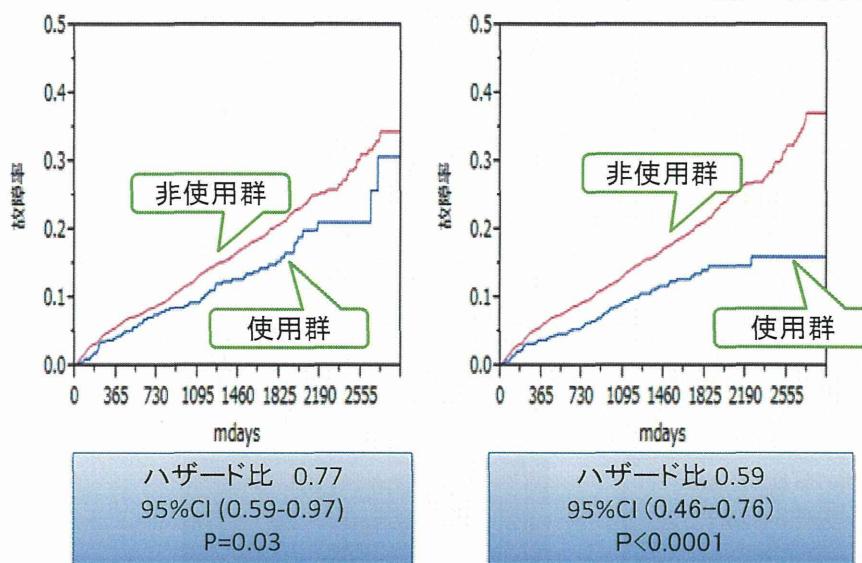
多変量解析 HR (95%CI) 0.92 (0.75–1.14) Cox Proportional Hazard model p=0.5

図C.2.3.1. スタチン使用、非使用とアウトカム



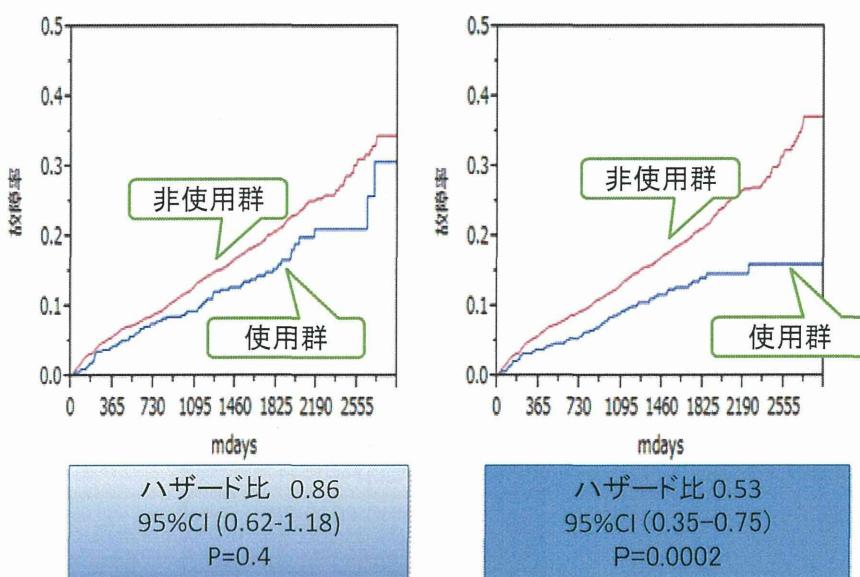
図C2.3.2.A 糖尿病薬とアウトカム

ベースラインのメトフォルミンとピオグリタツン 単変量解析
メトフォルミン 使用、非使用 ピオグリタツン 使用、非使用



図C2.3.2.B 糖尿病薬とアウトカム

ベースラインのメトフォルミンとピオグリタゾン 多変量解析
メトフォルミン 使用、非使用 ピオグリタゾン 使用、非使用



添付資料

**糖尿病合併冠動脈疾患患者レジストリに基づいたコホート研究とランダム化比較試験
積極的脂質低下・降圧の妥当性**

琉球大学大学院医学研究科 臨床薬理学 植田真一郎
佐賀大学医学部 循環器内科 野出孝一
20th September 2013
Symposium 2
Evidence for therapeutic strategy in diabetic patients with heart diseases
61st Annual Scientific Session of JCC, Kumamoto

糖尿病の危険因子介入評価の難しさ

2型糖尿病における多種、多面的な危険因子介入、心血管イベント予防

降圧薬	n-3 Fatty Acids	スタチン	アスピリン	メトフォルミン	目標血糖値
Ca拮抗薬 ACE阻害薬 ARB 利尿薬 β遮断薬	部分活性インスリリン分泌促進薬	DPP4阻害薗	SU	αグルコシーダーゼ阻害薗	目標LDL
				GLP1アナログ	目標血圧

2型糖尿病患者における心血管イベントを主要評価項目とした糖尿病についてのランダム化比較試験

臨床試験の名称	試験薬	症例数	開始月／年
ORIGIN	Insulin glargine	12,500	9/2003
TECOS	Sitagliptin	14,000	12/2008
ACE	Acarbose	7,500	2/2009
TIDE	Glidazone	16,000	中止
EXAMINE	Alogliptin	5,400	9/2009
CANVAS	Canagliflozin	4,500	11/2009
T-emerge 8	Taspoglutide	2,000	中止
Ale Cardio	Aleglitazar	6,000	2/2010
SAVOR TIMI-53	Saxagliptin	16,500	4/2010
ELIXA	Lixisenatide	6,000	6/2010
EXSCEL	Exenatide	12,000	6/2010
CAROLINA	Liraglutin	6,000	10/2010
LEADER	Liraglutide	9,000	11/2010
OKINAWA CHD	積極的降圧・脂質低下	1,200	8/2011

<http://www.clinicaltrials.gov> より

方法

- 糖尿病合併冠動脈患者レジストリ作成
 - 研究分担施設でCAG記録に基づいて糖尿病合併冠動脈疾患患者を連続登録
- 横断的解析とその結果に基づいたランダム化比較試験プロトコル作成
- コホート研究 血圧と脂質をtime dependent variableとした予備的解析
- ランダム化比較試験 RCT on Registry

横断的解析による危険因子管理状況の把握とランダム化比較試験研究計画作成

米国と日本の冠動脈疾患患者における危険因子の管理
(日本は糖尿病合併)

Medication	COURAGE study USA		Japan	Registry
	Medical Therapy (N=1138)	Baseline	5 Yr	
ACE 阻害薬 - %	60	62	18	26
ARB - %	5	16	48	46
スタチン- %	89	93	66	61
他の高脂血症薬- %	8	54	7	7
アスピリン- %	95	94	92	87
β遮断薬- %	89	86	27	30
Ca拮抗薬- %	43	52	45	49
Nitrates- %	72	57	29	32
利尿薬- %			23	29
α遮断薬- %			2	3

糖尿病薬の使用頻度 ACCORD研究との比較

	ACCORD Standard Glucose Control HbA1c 7.5%	Japanese High risk DM registry HbA1c 7.2%
メトフォル ミン	86.4	12.7
SU	67.6	35.9
グリニド	17.7	3
αGI	5.1	21.3
グリタゾン	57.5	14.7
インスリン	55.4	19.7
DPP4	4.9	0.2

身体所見、心血管リスクおよび生活習慣

	COURAGE研究 内服治療群 (N=1138)	H20年度調 査 (N=508)	今回 (N=622)
	Baseline	5 Yr	
血圧 - mmHg			
収縮期血圧	130±0.6 6	122±0.92	133±21
拡張期血圧	74±0.33	70±0.65	73±12
SBP < 130 DBP < 80 - %			38 30
脂質 - mg/dl			
総コレステロール	177±1.4 1	140±1.64	184.0±35.1
HDLコレステロール	39±0.37	41±0.75	50.5±14.2
LDLコレステロール	102±1.2 2	72±1.21	106.8±29.8
中性脂肪 - mg/dl	149±3.0 3	131±4.70	146.6±90.6
			163.3±127.1

RCTにおける目標値設定

全対象者の血圧および脂質データ

	SBP (mmHg)	DBP (mmHg)	LDL-C (mg/dl)
最大値	220	136	349
4分位点	149	83	134
中央値	136	73	108
4分位点	122	66	91
最小値	80	40	29

ランダム化比較試験

糖尿病合併ハイリスク冠動脈疾患患者における積極的脂質低下・降圧療法

糖尿病合併CHD
心筋梗塞既往あり
LDL 収縮期血圧が
ガイドライン推奨値を
達成していない患者

積極的脂質低下、降圧群
横断解析での下四分位点
(LDL70-85,SBP120)を目標

ランダム化割り付け 3年間観察

通常治療群
ガイドライン推奨値を目標

一次エンドポイント 総死亡、心筋梗塞、脳卒中、不安定狭心症による入院の複合
(割り付けをマスクされた委員会で判定)

野出孝一、植田真一郎 厚労科研H21-23

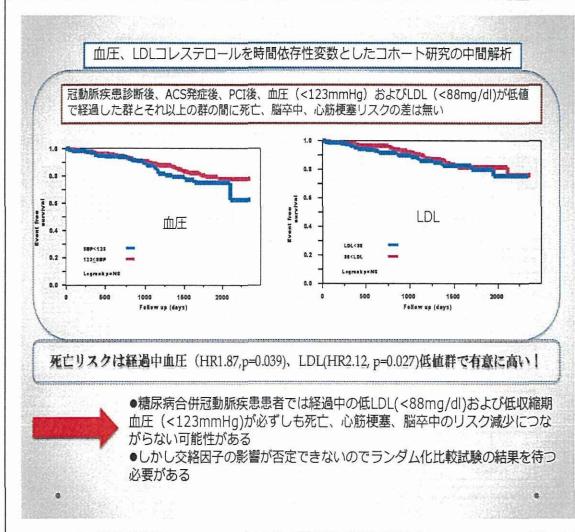
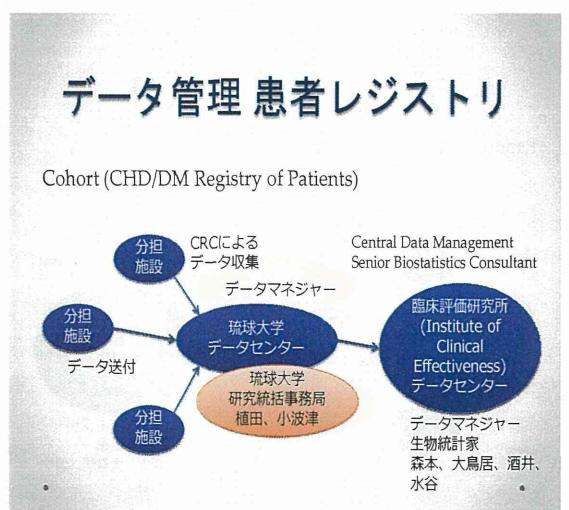
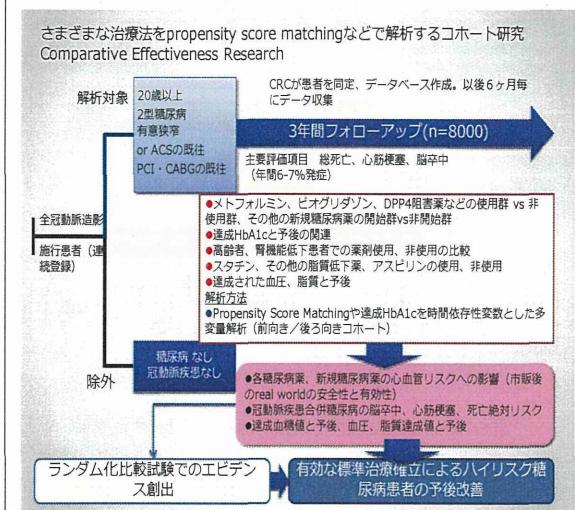
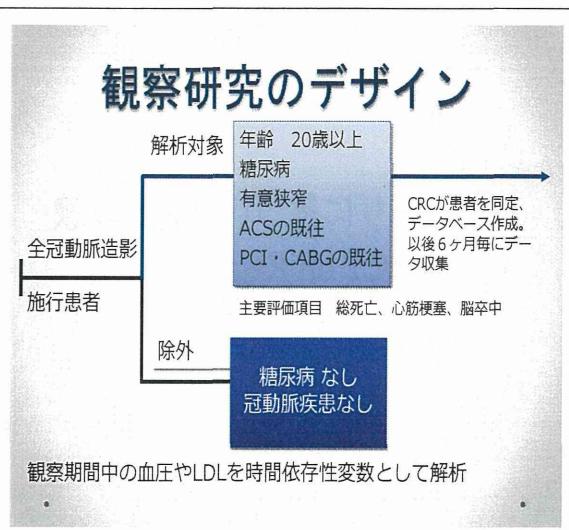
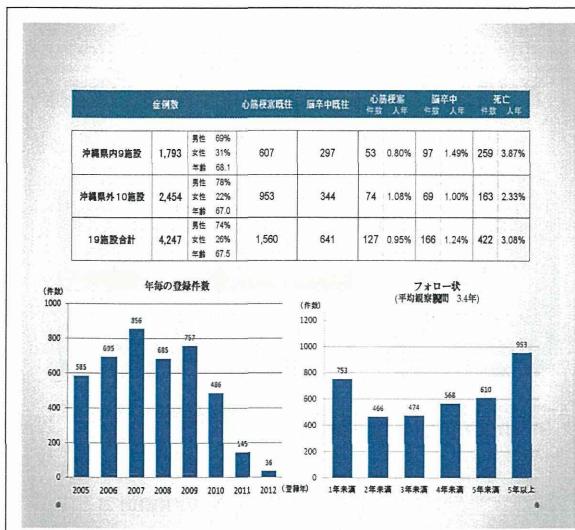
コホート研究

集団での絶対的リスク評価と血 圧、脂質を時間依存性変数とし た予備的解析

沖縄コホートでのイベント発症

N=1793,3.8年間

- 複合エンドポイント 409 件 (6.2% year)
 - 総死亡 (3.9% /year) 259症例
 - 急性心筋梗塞 (非致死性) 53症例 (0.8%/year)
 - 脳卒中 (非致死性) 97症例 (1.5% /year)

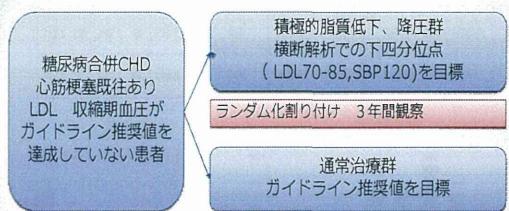


Variableとの関連を比較評価する Comparative effectiveness researchとして の観察研究を行うには

- 恣意性のない連続登録が必要（いわゆる3000例調査では無理）ランダム化比較試験でないことがreal world clinical practiceを保証するものではない。
- 独立したデータ管理と高度なスキルをもつ統計家（医師が望ましい）との共同研究 交絡因子をどのように処理するか
- アウトカムについてのフォローアップと評価 人材育成も必要
- ある程度の規模

レジストリに基づいた臨床試験 RCT on Registry

ランダム化比較試験 糖尿病合併ハイリスク冠動脈疾患患者における積極的脂質低下・降圧療法

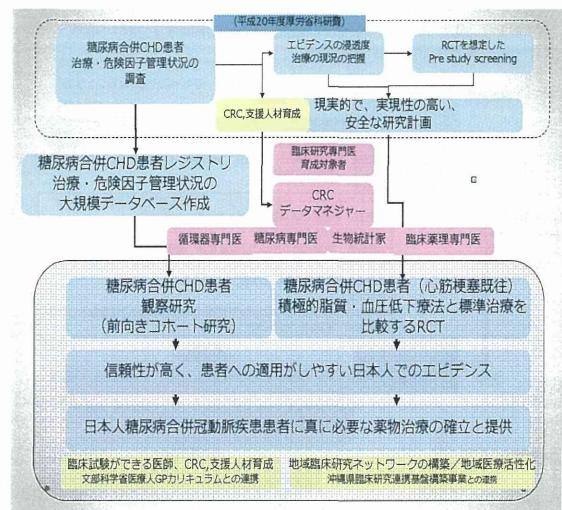
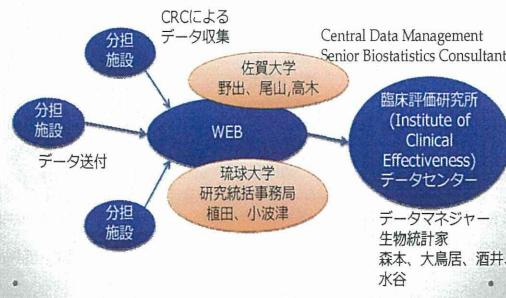


一次エンドポイント 総死亡、心筋梗塞、脳卒中、不安定狭心症による入院の複合
(割り付けをマスクされた委員会で判定)

野出孝一、植田真一郎 厚労科研H21-23

データ管理 RCT

Randomised Controlled Trial



コホート研究とランダム化比較試験を並行して走らせる意味 RCT on registry

- コホート研究は
 - 実現性が高く（診療の範囲内であれば個々の同意が必要なし）、
 - 除外の対象となる患者が少ないとあって外的妥当性（結果の一般化可能性）が高い。
 - さまざまな解析が可能。
 - ランダム化比較試験実施のDBとして機能
 - しかし交絡因子を排除できない。
- ランダム化比較試験は
 - 明瞭な結果を得られるが1試験1仮説。
 - 外的妥当性は低い。
 - 手間がかかる。
- 外的妥当性の評価
- 二つの結果が一致すれば真実に近い事実

Registry-based RCT and cohort

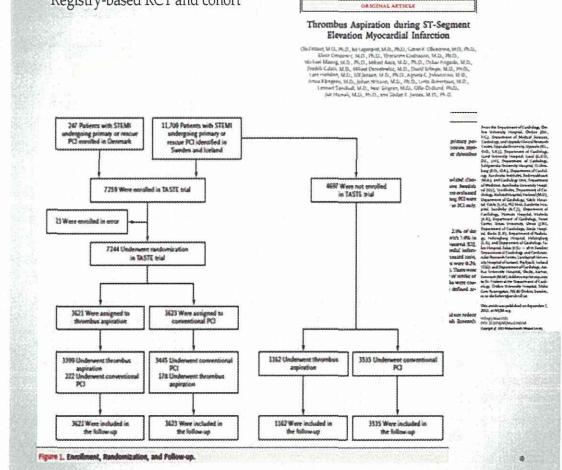


Figure 1. Enrollment, Randomization, and Follow-up.

Table 2. End Points According to Randomization Status and Treatment Group.						
End Point	Patients Who Underwent Randomization			Patients Who Did Not Undergo Randomization		
	Thrombus Aspiration (N=362)	PCI Only (N=362)	Point Estimate (95% CI)	P Value	Thrombus Aspiration (N=1162)	PCI Only (N=333)
30 days						
All-cause death — no./total no. (%)	103/362 (28)	110/362 (30)	Hazard ratio, 0.94 (0.72–1.22)	0.63	124/1138 (10.9)*	162/3442 (10.5)*
Rehospitalization due to reinfarction — no. (%)	19 (0.5)	31 (0.9)	Hazard ratio, 0.61 (0.34–1.07)	0.09	10 (0.9)	38 (1.1)
All-cause death or myocardial infarction — no./total no. (%)	121/362 (3.3)	140/362 (3.9)	Hazard ratio, 0.86 (0.67–1.09)	0.23	134/1138 (11.8)*	398/3442 (11.4)*
Stent thrombosis — no. (%)†	9 (0.2)	19 (0.5)	Hazard ratio, 0.47 (0.20–1.07)	0.06	5 (0.4)	18 (0.5)
Target-vessel revascularization — no./total no. (%)	63/349 (1.8)‡	76/349 (2.2)‡	Hazard ratio, 0.83 (0.59–1.15)	0.27	30/1162 (2.6)	80/3535 (2.3)
Target-lesion revascularization — no./total no. (%)	43/349 (1.2)‡	57/349 (1.6)‡	Hazard ratio, 0.75 (0.51–1.12)	0.16	24/1162 (2.1)	64/3535 (1.8)

Summary & Conclusion

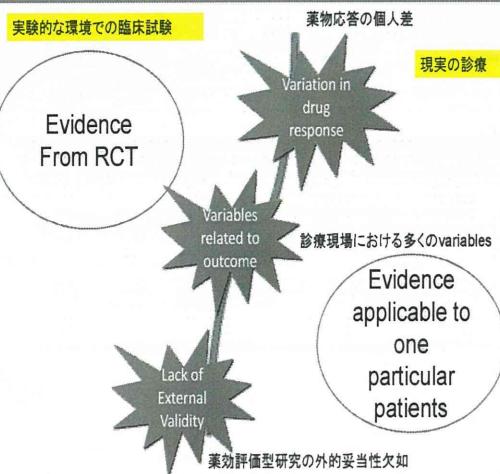
- 糖尿病合併冠動脈疾患は多くのvariableが予後に関連
- すべてをRCTで解決するのは時間と費用がかかり、バイアス（メトフォルミン無視等）も生じる
- 質の高い観察研究によるさまざまなvariableと予後の関連の比較評価が可能
- しかし交絡因子の排除には限界があり、問題によってはRCTが必要
- これらの研究基盤としてのRegistryおよびRCT on registryを推進すべき

Perspective						
The Randomized Registry Trial — The Next Disruptive Technology in Clinical Research?						
Michael S. Lauer, M.D., and Ralph B. D'Agostino, Sr., Ph.D.						
The randomized trial is one of the most powerful tools clinical researchers possess, a tool that enables them to evaluate the effectiveness of new (or established) therapies while accounting for						
<ul style="list-style-type: none"> Lower Cost Quicker recruitment Easier follow up Shorter case report form 						

RCTにおける目標値設定 ACS既往患者での血圧および脂質						
	SBP (mmHg)		DBP (mmHg)		LDL-C (mg/dl)	
	MI(-)	MI(+)	MI(-)	MI(+)	MI(-)	MI(+)
最大値	220	182	136	111	349	252
4分位点	150	144	83	84	137	121
中央値	139	132	74	72	111	98
4分位点	126	120	67	64	93	86
最小値	80	88	48	40	29	41

動脈硬化性疾患への介入の比較評価 レジストリーベースの観察研究とランダム化比較試験

第34回日本臨床薬理学会
シンポジウム14
市販後安全性、有効性評価ツールとしてのComparative effectiveness research
琉球大学大学院医学研究科 臨床薬理学
植田真一郎



動脈硬化性疾患 薬物療法の至適化に関する課題

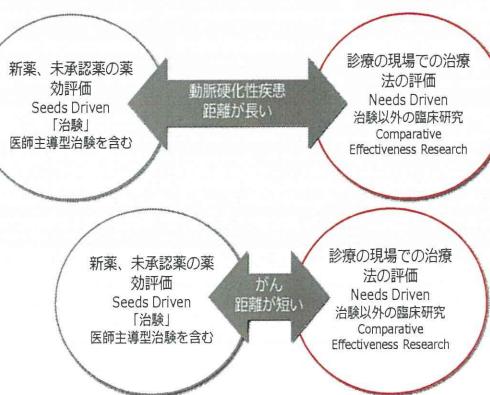
- Phase IIIまでの安全性に関するデータは市販後の安全性と一致しないが、市販後の安全性を評価する適切な方法がない
 - 治験と異なり、より高齢者、合併症併用薬ありで処方（例：スピロノラクトンでの高カリウム血症）
 - 有害事象の報告はあっても母集団の数が不明（有害反応発生の割合が不明）
 - これまでの治療などと比較していない
 - 報告のバイアス（ワルファリン vs NOACs）
 - 有効性が明らかでありその薬が必要であるが「禁忌」「慎重投与」「有害反応の情報」などで使い難い（メトフォルミン、β遮断薬、利尿薬）
 - アトカム改善という有効性が証明されていない
 - 証明が困難（降圧薬）
 - プラセボ比較試験で有効性証明できず（DPP4阻害薬、アログリチチン、サキサグリブチン、EPA/DHA、エゼチミブ）
 - サロゲートマーカーでの承認
 - 薬剤以外でも多くのvariableが存在
 - 目標血圧、LDL、HbA1cなどの指標が確立していない

医師主導型研究の目的のひとつは診療の現場での臨床的疑問の解決

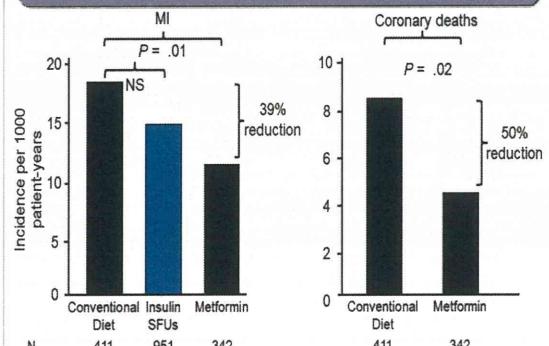


この二つは研究デザイン、安全性確保の体制、研究実施体制など多くの点で異なる

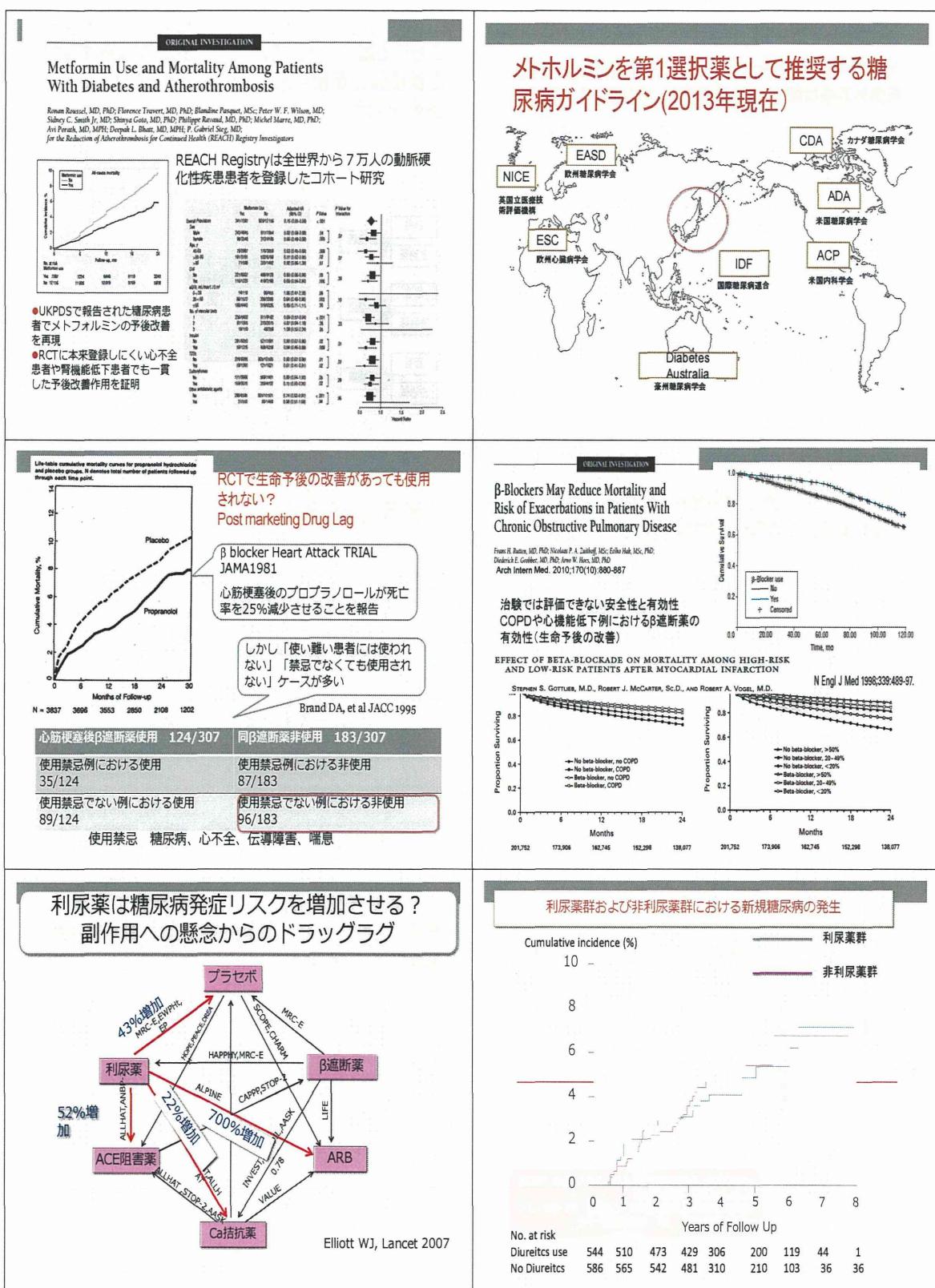
医師主導型研究とは？

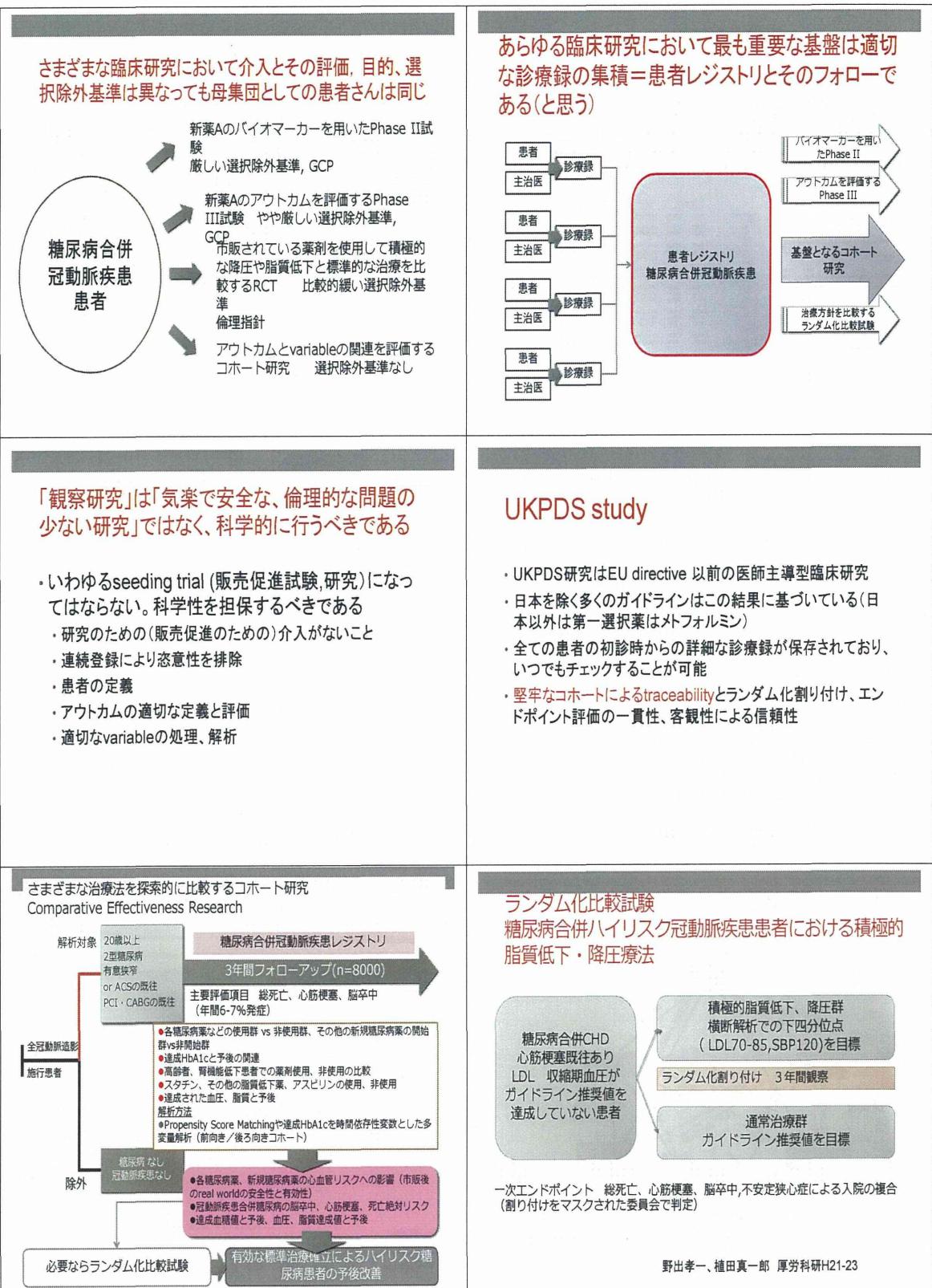


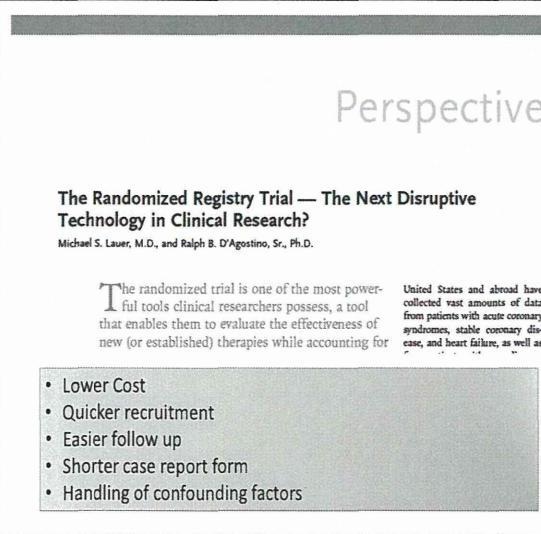
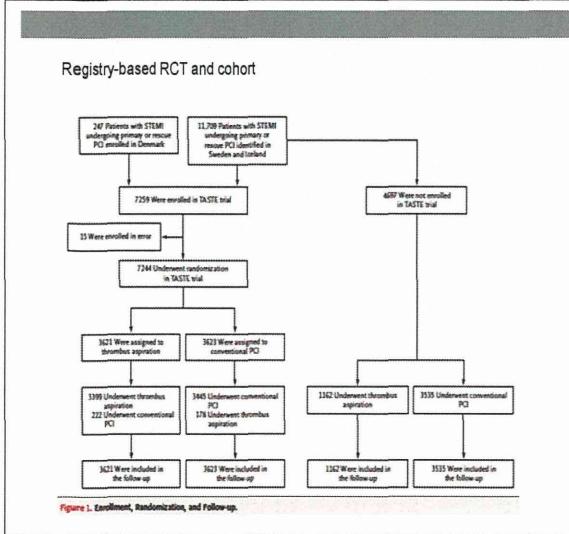
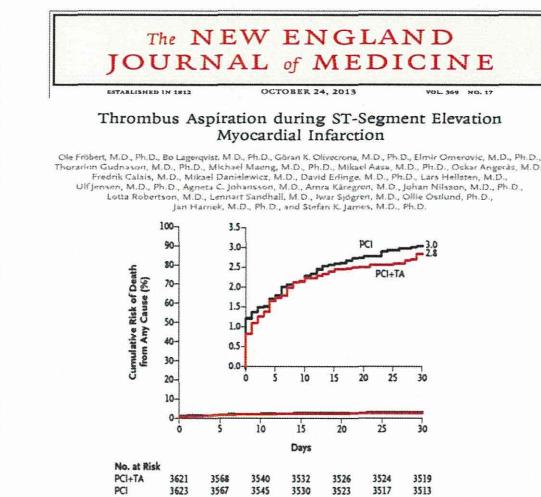
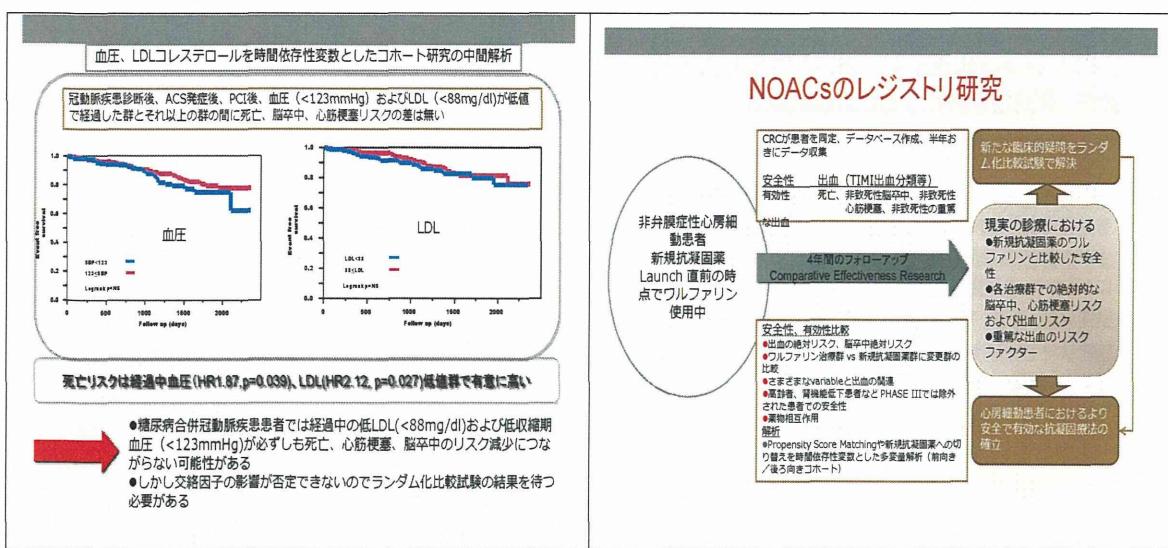
メトフォルミンは冠動脈疾患リスクを減少させる UKPDS 34



UKPDS 34. Lancet. 1998;352:854-865.







まとめ-動脈硬化性疾患において治療介入の安全性、有効性を評価するComparative effectiveness research

- ・動脈硬化性疾患の治療的介入は開発の段階では安全性や有効性はあきらかではなく、適切な市販後の研究が必要
- ・まず適切な(科学的な)患者レジストリの構築とフォローアップによるコホート研究
- ・研究目的、患者、アウトカムの定義、variablesのハンドリング
- ・観察研究では解決が困難な課題はランダム化比較試験を実施できる基盤が必要

